

☆実態及び課題

教科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	<p>自分の意見を2文程度で、発表することができるようになってきた。</p> <p>書くことについては、3文程度書くことができるようになってきたが、助詞「は」「を」「へ」や、濁音と半濁音、長音、拗音などの使い方に課題が残る児童もいる。</p> <p>文章の読解について、正しく読み取ることが難しい児童もいる。</p>	<p>自分の意見を積極的に発言できる児童が多い。一方で、みんなの前で発表することに抵抗のある児童もいる。「読むこと」においては、物語の読み取りで、登場人物の気持ちを考え、ノートに書いたり、発言したりすることができる児童が多い。「話すこと・聞くこと」においては、自分の意見は伝えられるが、友達の話最後まで聞くことができない児童がいる。また、「書くこと」においては、ノートや原稿用紙へ書くことやその使い方が身に付いていない児童がいる。</p> <p>【NRT】 「話すこと・聞くこと」は全国平均を上回っている。一方で、「書くこと」「読むこと」が全国平均を下回っている。特に、「はへを、句読点、片仮名の書き」「話の内容の大体をとらえる」「文章を読み感想などを伝え合う」「漢字の読み、言葉のまとまり」の正答率が低い傾向にある。</p>	<p>物語文や説明文の学習では、叙述を根拠に読み取ることができる児童が多い。一方で、叙述をもとに想像することが苦手な児童もいる。また、「話す・聞く」においては、自分の意見を伝えることができる児童が多いが、友達の意見を最後まで聞くことができない児童がいる。「書く」においては、書字が丁寧でない児童が多いため、細かなところで漢字を間違えてしまう児童が多い。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っている。一方で、漢字の読み書きと、重要な語や人物の行動をとらえることについては正答率が低い傾向にある。</p>	<p>物語文や説明文の学習では、叙述を基に筆者の考えを読み取ったり、そこから考えを広げたりすることができる児童が多い。一方で、自分の考えを言語化したり、文章にして書いたりすることに苦手意識を感じている児童も多い。また、文章を順序立てて書くことができず、作文に苦手意識を感じている児童も多い。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、漢字の読み書きについては正答率が低い傾向にある。</p>	<p>物語や説明文の学習では、叙述を基に読み取ったり、筆者の意見に対する自分の考えを書いたりできる児童が多い。また、話し合いに意欲的に参加できる児童が多い。一方で、漢字の読み書きについては、既習した漢字を活用して、文章を書くことに苦手意識のある児童も多い。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、漢字の読み書きについては正答率が低い傾向にある。</p>	<p>物語や説明文の読み取りはよくできている。児童によって考えを表現する力に差があり、上手に考えを表現できる児童もいるが、考えをまとめることが難しい児童、発言や文章が文法上理解できていない児童もいる。</p> <p>話し合いでは、自分が言いたいことを優先するため、話の流れを無視した発言やまとまりのない意見が時々聞かれる。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、話し合いの立場の把握や意見文の要約、古典の音読や漢字の書きの正答率が低い傾向にある。</p>
社会			<p>文京区の町の様子の学習では、教科書や地図帳の資料を読み取り、交通や伝統ある建物について考えることができた。また、町の人々の仕事の学習では、見学に行ったり現地で活躍する人に質問をしたりしながら積極的に取り組む児童が多かった。一方で、学習したことや調べた内容をまとめることに課題をもっている児童が多い。</p>	<p>水道やごみの学習では、教科書やインターネットなどの資料から情報を読み取り、そこに関わる人びとの努力や工夫について考え、問題解決に繋げることができていた。一方で、読み取った内容から必要な情報を精選したり、それらの情報を自分の言葉でまとめたりしていくことに課題をもっている児童が多い。</p>	<p>どの児童もタブレットを活用して、様々な情報を収集し、自分なりの方法(ノート・ワード・パワーポイント)でまとめることができていた。一方で、情報過多となり、適切にまとめることができなかった児童もいた。また、まとめることだけに注力し、なぜそのような事象が起きているのか等の理由や根拠についてまで言及できない児童がいた。</p>	<p>教科書や資料集の想像図から、必要な情報を読み取ったり気付いたりする力が高まってきた。一方で、資料から自分の知りたい情報を適切に読み取ったりまとめることが苦手な児童が多い。自分が知りたい情報がどこに書いているのかを見つけられない児童もいる。</p>
算数	<p>半具体物であるブロックや、丸図で自分の考えを表し、計算することができる。</p> <p>文章問題の読み取りが難しい児童もいる。そのため、聞かれていることに答えることができないという課題が残る。</p> <p>自分の考えを、順序立てて説明する力を高めていく。</p>	<p>算数への学習意欲が高い児童が多い。1年生までの学習内容が定着している児童が比較的多い。一方で、かさや時刻でつまづいている児童が複数いる。</p> <p>【NRT】 「長さ、広さ、かさ」「時刻の読み方」以外の項目については、全国平均を上回っている。</p>	<p>2年生までの学習が定着している児童が多い。3年生の学習も、どの単元においても学習内容の定着度が高い。一方で、単元別のテストを見ると、学習内容の定着度の個人差が多いものもある。また、理解している児童の中にも、単位の書き忘れや計算ミスが見られることもある。</p>	<p>単元別テストを個別に見ると、学習内容が定着している児童とそうではない児童との差が大きい。特に、一億より大きい数や小数のしくみの定着に課題がある。また、理解していても単位の書き忘れをしている児童が多い。</p>	<p>図形では比較的ほとんどの児童が正確に作図をすることができる。</p> <p>数と計算では、小数のかけ算やわり算の基礎的な計算はできるが、文章問題になると立式ができない児童が多い。また、基礎的な知識はあるが、なぜそうなのか説明できない児童も多い。</p>	<p>問題を意欲的に解決しようとする児童が多い。問題から立式し、答えを求めると考えられる。一方で学年全体で公式は知っているものの、それに至るまでの過程を既習事項と関連付けて考えることに課題がある。基礎コースでは、基礎的基本的</p>

		る。数と計算領域と図形領域については、正答率が7、8割程度であり、定着している。一方で測定・データの活用領域では、他の領域と比べて正答率が低く、課題が見られた。	【NRT】 「長さ、かさ」以外の項目については、全国平均の正答率を上回っている。数と計算領域と図形領域については、正答率が8割程度であり、定着している。一方で「長さ、かさ」を含めた、測定・データの活用領域では、他の領域と比べて正答率が低く、課題が見られた。	【NRT】 どの領域においても全国平均の正答率を上回っている。正答率も高く、前学年までの内容をほぼ定着できていると考えられる。「二等辺三角形の説明」は、正答率が低い。図形の性質の理解に課題がある。	【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、割合・数の変わり方の正答率が低い傾向にある。	な計算や解法が身に付いていない児童もいる。 【NRT】 倍数の考えの適用、グラフの読み取り、速さの比較や立式、2つの円周の差の変化の項目で、正答率が学年全体で低い。学年全体で塾や自主学习などで知識はある(暗記)が、知識理解が浅く思考する過程での活用が難しいことが分かった。
理科			問題に対して、自分なりの予想をもって、観察や実験を行っている児童が多い。特にエネルギー領域に高い関心をもち、意欲的に学習に取り組む児童が多い。一方で、自然事象の体験から、学習問題を立てることや実験・観察の結果から考察を表現することが難しい児童が多くいる。	どの単元でも自分なりの予想をもち、実生活の経験を生かしながら、実験や観察を行っている。特に生き物や自然には高い関心をもち、意欲的に学習を行っている。一方で、結果をもとに考察し、自分の考えを広げて、表現することが難しい児童も多くいる。	植物の実験や世話を意欲的に行っていた。変化の様子を逐一報告する児童もいた。一方で、植物の成長や成長条件に興味をもてない児童もいた。 実験結果を受けて自分なりの考えを表現できる児童がいる一方で、結果を踏まえて考察できない児童もいる。	実験や観察については、積極的に行う児童が多い。進んで取り組んだり、新しい疑問に対してさらに確かめようとしたりする児童がいる。 実験から結論までの考察の過程においてつまずく児童が見られる。知識として実験結果や結論を知っているが、実験から論理立てて結論を説明できる児童が少ない。
生活	五感を使って、植物の様子をじっくりと観察し、観察カードに絵や短い文章で表現することができる。	植物の世話や観察を意欲的に取り組む児童が多い。変化や特徴などの気付きを絵や文章等で表現することは多くの児童ができる。町探検では、自分の生活との関わりを考えながら学習に取り組んでいる児童が多く見られた。				
音楽	音楽を静かに聴く習慣が身に付いていて、音楽の特徴や変化を聴き取ることができる。そのため、めあてに沿った表現の工夫ができる。また、ペア学習やグループ活動も友達を思いやりながら協力して取り組んでいる。一方、自分の発想を元に行う音楽づくりの活動では、戸惑い、消極的になる場合がある。	歌唱やリズム打ちなど体を使って表現する活動に意欲的な児童が多い。鑑賞活動の拍の特徴を感じる学習では、自然と体が動き身体表現へとつながっている。一方で、友達の演奏した音を聴いて合わせることで苦手で、全体で合奏する時、音がそろわないことが多い。	表現活動を楽しみ取り組んでいる。また、新しい活動にも意欲的である。今年から始まったリコーダーの学習では、歌唱と息の使い方が異なることを認識し、工夫して表現できる。一方、集中できない時は、周りの音を聴かず、自分だけが心地よい声や音を出す傾向がある。	どの活動も意欲的に取り組んでいる。鑑賞活動においては、聴いて感じ取ったことを言葉で表すことができるようになった。一方、曲想に合った演奏や技能が必要となる活動では、消極的になる児童もいる。また、ペア活動やグループ活動に消極的な児童もいる。	音楽を集中して聴くようになり、強弱を工夫して歌ったり、友達の音を聴いて合わせて演奏する習慣が身に付いてきた。また、リコーダーの技能も高まり広い音域の楽曲を演奏できるようになった。一方、鑑賞活動では、楽曲全体を味わって聴き、文章にまとめることは難しい。	歌唱活動の三部合唱では、声が響き合う心地よさを感じながら取り組んでいた。また、ボイスパーカッションの活動では、ICTを活用しながら言葉とリズムを考え、自分たちが納得できる発表ができた。一方、器楽活動では、様々な楽器を体験させたいが、選択する楽器が固定している児童が多い。
図工	意欲的に取り組んでいる。活動の進め方を理解し、自分らしく表現できる児童が多い。作品作りに集中して取り組む時間が期待以上に長い。道具の準備や片付けに課題がある。	どの題材も意欲的に取り組む児童が多い。新しい素材や技法に興味関心が高く、より良い物を作ろうと工夫する。一方で、授業に関係のないことをしたり、集中して取り組めなかったりする児童もいる。	どの題材も意欲的に取り組む児童が多い。新しい素材や道具にも敏感で、個々に何度も試したり、より良い物を作ろうと工夫したりして、様々な作品が見られ児童の刺激になっている。一方、敏感であるがゆえに、友達の作品に対して思ったことをすぐ発してしまう傾向がある。自他を大切に声掛けが必要である。	真面目に、どの題材もめあてを意識しながら取り組む児童が多い。試行錯誤をしながらより高みを目指して努力するため、完成度の高い作品が多い。ごく一部で、友達の意見に流されて授業中ということを忘れ、クラス全体の制作する雰囲気乱してしまうこともある。	ICT等使う道具が増え、どの題材にも高い関心と意欲で取り組む児童が多い。5年生では彫刻刀や電動鋸など危険な刃物の扱いも増えていくため、穏やかな気持ちで安全に気を付けて授業に取り組めるように指導していく。	題材の目標、各授業のめあてを自分なりに理解し、コツコツとまじめに取り組む、仕上げていく児童が多い。一方で、なかなか制作に集中できず、図工室内の道具に興味を惹かれてしまう児童も見られる。
家庭					初めての調理や裁縫の学習に興味をもって取り組む児童が多い。やり方が分からない児童がいると、進んで教えている姿が多い	調理や裁縫など、実習的なものは興味をもって取り組むことができる。一方、講義が中心の授業になると、時々よい意見を

					く見られた。自分の作業に集中する時間を増やすことが課題の児童が少なからずいる。	言うものの、一緒に取り組むことのできない児童もいる。その子たちをどのように取り込んでいかがが課題である。
体育	走る・投げるなどの動きを取り入れた遊びの中で楽しく運動することができた。一方で、勝敗を受け入れて、友達と仲良く運動することが難しい児童もいる。	多くの児童が積極的に運動に取り組むことができている。できないことや苦手なことにも少しは挑戦しようとする意欲をもっている児童が多く見られる。一方で、勝敗を受け入れて、友達と仲良く運動をすることが難しい児童もいる。	意欲的に運動に取り組む児童が多い。運動に楽しく参加し、できないことや苦手なことにも前向きに挑戦しようとする児童が多い。一方で、勝ち負けのある運動については、勝ちへのこだわりを強くもつ児童が多く、ルールを守れなかったり、気持ちのコントロールができなかったりする児童もいる。	意欲的に学習に取り組む児童が多い。身体を動かすことが好きな児童が多く、どの単元でも積極的に準備をしたり、苦手なことにも挑戦したりする児童が多い。一方で、勝敗がある運動では、負けてしまった際に、気持ちのコントロールが必要な児童もいる。	多くの児童が意欲的に運動に取り組んでいる。リレーやマット運動では、教え合う場面が多く見られた。共に学び合い、高め合おうとする気持ちがある。一方で、積極的に学習に取り組めない児童、自身の課題に向き合えず、進んで課題解決を図れない児童がいる。	積極的に運動に取り組んでいる児童が多い。声を掛け合ったり、教え合ったりする様子も見られる。一方で、技術を高めたり技に挑戦したりすることではなく、体を動かすことだけに楽しさを感じている様子も見られる。練習に集中しすぎて集団で整列、集合に時間がかかったりすることもある。
道徳	学習課題に対して自分の考えをもち、積極的に発表することができる児童が増えてきた。また、友達の考えを聞くことで、自分の考えをもつことができるようになってきた児童もいる。一方で、学習で学んだことを生活に生かしていくことに関しては、課題がある。	内容を読み取り、深め、自分の考えをもつことができる児童が多い。また、友達の意見を聞くことで、自分の考えを深めることができた児童もいる。一方で、学習で学んだことを生かされずに授業内で完結してしまう児童もいる。	価値項目について、客観的な視点から正しい判断をすることはできるが、自分自身の生活に結び付けて、学んだことを生かされない児童もいる。	教材文を通して、「自分が主人公の立場だったらどうするか」という視点で考えることができている。また、自分の考えをもつて、友達の考えと比べることもできている。一方で、学んだことを生活に生かされない児童もいる。	教科書の話をよく読み、登場人物の気持ちを考え、自分の考えをもてる児童が多い。一方で、学んだことを自分の生活と結び付けて考えることに苦手意識のある児童もいる。	問題に対して、客観的な「正しい」判断はできるが、自分自身を含まずに考えることが多い。自分の生活に結び付けられずに、考えに一貫性がなくなったり、消極的になったりすることがある。
外国語					チャンツを大きな声で歌い、その単元に必要なセンテンスや語彙を獲得できている児童が多い。また、どのアクティビティにも進んで取り組み、コミュニケーション能力を高めようとする児童が多くいる。その一方で、センテンスや語彙を理解できずに、アクティビティにおいて他者と十分に関われない児童がいる。	積極的に友達に声を掛けてペアで話したり、手を挙げて発言したりする児童が多く、英語を使ってコミュニケーションを図ることを楽しんでいる児童が多い。チャンツや歌も声を出して取り組み、暗記して会話の時に役立てている。一方でアルファベットの大きい文字、小さい文字を区別することや丁寧に書くことに課題があったり、全体場で発表することに抵抗感があったりする。

☆課題解決の視点・手立て ※取り組む内容 課:課題 学:学習形態 発:発問・指示・板書 教:教材の工夫

教科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正
国語	課児童が自ら積極的に取り組める言語活動を設定し、児童が文を書く機会を多く設定することで、正しい文章の書き方を身に付けさせる。 教教科書に出てくる		学「話すこと・聞くこと」では、話の聞き方や、話し合いの仕方の指導を丁寧にやる。 学「書くこと」では、作文を書く機会を多く設け、書き方を身に付けさせる。		教「漢字の読み書き」では、漢字練習ノートを活用し、毎日漢字を書く機会を作ったり、朝学習に漢字の復習をしたりして確実に定着できるようにする。 学物語文の学習では、		課「漢字の読み書き」では、漢字ドリルの宿題を毎日出したり、朝学習の時間に漢字の復習を行ったりするなどをして、確実に定着できるようにする。 学物語文や説明文を		教漢字の読み書きでは、漢字テストを通して間違えの多い漢字の復習などをして定着できるようにする。 発なるべく漢字を使って作文や意見文が書けるようにその都		学書く、話す等、表現する活動の時間を十分に確保する。つまり、活動の中で個別に支援していく。 学様々な形の意見交流の時間を確保し、よ	

	言葉について取り上げることで語彙を増やし、読解力を身に付けさせる。		学「読むこと」では、物語文や説明文の大体を捉えられるまで繰り返し音読をさせる。		文章を読んで感じたことを書いて表現したり、友達に伝えたりして、叙述をもとに想像する力がつくようになる。		読んで感じたことを文章に表す機会をつくり、単元のまとめの学習で作文を書いたりすることで自分の考えを言語化できるようにする。		度声かけをしていく。また、分からない漢字は漢字辞典で調べよう指導する。		り多くの考えに触れ合えるようにする。聞く側、話す側と順番を決めたり、相手の意見を説明したりする等、それぞれの意見をきちんと把握できるようにする。
社会					発学習のまとめ方の例を提示して、情報の整理の仕方や表現の仕方を伝えていく。教児童が調べたことなどを、分かりやすくまとめることができるように、ワークシートの内容を工夫する。学学習のまとめの段階などで話し合い活動を取り入れることで、自分が学習したことを要約して表現することができるようにする。		発学習のまとめ方が上手な児童のノートを紹介したり、まとめ方の例を示したりすることで、情報整理の仕方や表し方を伝えていく。学学習のまとめの段階などで話し合い活動を取り入れ、多様な意見や考えを交流することで、重要な情報について考えられるようにしていく。		発情報過多で、適切にまとめられない児童に対しては、まずは課題の本質と一緒に考え、次にどんな情報を、どのようにまとめていくとよいのかについて共に考えていくようにする。課課題を提示する際、理由や根拠も調べるように伝える。また、全体共有の場面で「なぜ」「どうして」と投げかけ、社会的事象の原因等について考えていけるようにする。		教児童が関心をもつ教材を精選し、めあてを明確にする。想像図から分かることを見つけさせることで、自分の考えをもてるようにする。学個人学習の後に、共有、確認、話し合いの時間をとり、視点や考えを広げられるようにする。
算数	発分かっていることと問われていることに線を引いたり、音読させたりして、問題場面を理解できるようにさせる。学話し合いの際に、ペアやグループなど段階を踏んで自分の考えを説明する機会を設けていく。		発解くだけでなく、見直しをすることを繰り返し何度も声掛けする。学日常生活と関連させて、かさや時計等の知識を身に付けさせていく。		発問題を解き終わったあとに、必ず見直しをするよう声をかけ、丁寧に問題を解くことができるようにする。また、単位の書き忘れないように、授業内でもきちんと書くように指導する。教測定やデータの整理を確実にするために、一つ一つの数値を丁寧に読み取るよう声掛けをする。		課図形の学習では、ICTを活用することで、図形の構造が視覚的に分かるように教具を工夫する。また、その図形の特徴を全体で確認する。発単位の書き忘れないように、授業内でも単位まで確認して書かせる。		教間違えずに立式できるように、基にする数や比べられる数をしっかり見分けることや、数直線を活用できるように指導する。学なるべく多くの友達に、自分の考え(立式の根拠、数直線の数値の意味等)を伝え合えるように交流する時間を設ける。		発既習事項と公式の関連を児童から引き出したり、教師が適切に教えたりすることで理解を深めさせる。また、単位の書き忘れないように、授業内でも省略せずに書かせる。

理科					<p>発問題作りの場面や実験の結果から考察をする場面で、考え方を黒板に掲示し、児童が自分の力で考えることができるようにする。</p> <p>学問題に対して予想したり、実験・観察結果に対して考察したりしたことをグループで共有する時間を設けることで、問題発見能力や考察力を高めていく。</p>		<p>教学習問題を設定し、解決のために予想、実験を行い、その結果をもとに考察する一連の問題解決の流れを明確にして定着させる。また、その流れを板書に整理して書くよう工夫する。</p>		<p>発授業時間以外にも、教師自身が植物の成長過程に興味をもち、児童に向けて話をしていく。また、興味関心を引き出せるよう、問いを工夫する。</p> <p>発全体で結果を共有し、結果の原因を問う。また、グループによって結果が違った際は、理由を考えていく学習を積み重ねていくことで、考察力を高める。</p>		<p>発実験結果から「そこから分かること」として問題の一般化を図る(『つまり～』)こと、結論まで繋げられるようにする。</p> <p>学グループで実験を行い、実験のまとめ(結論)を考えられるようにする。全体の場でも発表の時間を確保し、よりよいまとめの形を模索していけるようにする。</p>	
生活	<p>学観察カードをお互いに見合ったり、発表したりする中で、感想の書き方や表し方を共有する時間をつくる。</p>		<p>学他教科と関連させ新しい視点を学んだり、友達のカードを見てよい視点を見付けたりして、次の単元に生かせるようにする。</p>									
音楽	<p>教常時活動で、即興的な活動に慣れさせる。音楽づくりの活動が主となる題材では、段階を踏んで取り組み、自分で考え表現する活動に進めるようにする。</p>		<p>学器楽活動の題材において、ペア学習やグループ学習を取り入れ、互いの音を聴いて演奏し、認め合う機会をつくる。</p>	<p>発活動だけで授業が進まないよう、目標を掲示し、児童が意識的に表現できるようにする。</p> <p>学友達の演奏を聴く場合、座席の配置を工夫し、集中できる環境をつくる。</p>			<p>課技能をともなう活動では、児童の実態に合わせて、毎時間達成できる課題を設定する。</p> <p>学児童同士が協力して進めていく活動では、目標を児童が理解したことを確認してから進める。</p>		<p>発曲想を表す言葉を掲示する場所を設ける。またどの活動でも楽曲を聴いた後は、どんな言葉に表すことができるか発問し、言葉の語彙を増やす。</p> <p>教鑑賞活動では、自分の聴きたい箇所を自由に聴けるよう1人1台端末を活用する。</p>		<p>課器楽活動では、様々な楽器を体験してから、楽器を選択できるよう、最初に簡単なフレーズを複数の楽器で演奏する課題を設定する。</p> <p>発選択した楽器を目標をもって取り組めるよう、奏法について個別に助言する。</p>	
図工	<p>発道具の準備や片付けの仕方が理解できるようにこまめに声を掛ける。</p>		<p>学ペアやグループ交流を取り入れて、お互いの作品に触れる機会をつくる。思いついたことや感じたことを話したり、発想を広げる</p>	<p>発一人一人の表現や工夫を具体的に何が良いのか伝え、一人一人の表現や工夫を認め、具体的に何がよいのかを伝える。表現の</p>			<p>教どの子も期待感をもち、楽しみ、深められる教材を用意する。</p> <p>課児童一人一人に合わせてためあてに向かって、スモールステッ</p>		<p>学使う道具や材料に合わせて学習形態を変えて、誰もが楽しめるような図工室ならではの空間を作る。</p>		<p>教児童が既習事項を生かし、扱いたくなるような材料や表現方法を用意する。</p> <p>発図工と関係ないことをしたり、集中でき</p>	

			場をつくったりする。		違いがあって当然であり、どんな表現も尊重される安全な場所であることを伝えていく。		プで進められるよう課題を示す。				ない児童にはよく話を聴き取り、発想の転換を促す。
家庭									教引き続き学習意欲を高められるよう、教材の工夫をしていく。 学集中力を高められるように、作業の時間と説明の時間の区切りをしっかりとつけていく。		発児童の実際の生活につなげる授業展開を行うことで、児童の関心をより深めさせる。 教座学の授業において、実際の道具や材料等の提示、数値の計測の実施等、児童が関心を引く工夫をしていく。
体育	学勝ち負けだけではなく、友達の良かった動きなどを振り返る場面を設定し、楽しく工夫して運動する良さを価値付けていく。 教安全な場の設定の仕方を指導し、友達と協力して場の設定ができるようにする。		教安全な場の設定の仕方を指導し、友達と協力して場の設定ができるようにする。 発学習の最初にどんなことをするのか全体の見通しをもてるように視覚と聴覚に訴えかける方法で学習内容を伝える。		教意欲的に取り組むことができない児童も、運動を楽しむことができるように、児童と共に考えながら、内容を決めていく。 学勝ち負けがある運動については、チームで話し合いをする場面を設け、仲間と協力して取り組むことができるようにする。また、ルールの共通理解を図り、相互審判でゲームを行うことで、ルールを守りながら運動を楽しむことができるようにする。		発学習のはじめに、学習内容をしっかりと伝え、見通しをもてるようにする。 学勝敗があるものについては、悔しい気持ちも認めつつ、改善策を考えられるような発問をする。また、チームでめあてを立てさせて、めあてに向かって仲間と協力することや、達成させることの楽しさを感じられるようにする。		発積極的に取り組めない児童に対しては、友達と体を動かす楽しさや、できた喜びを味わわせられるよう、児童にとって魅力的な活動を展開したり、スモールステップの場を設定したりしていく。 発課題解決が図れない児童に対しては、「どうなりたいか」、「どうしたいか」を考えさせ、目標とともに主体性を引き出し、取り組めるようにしていく。		学チームで話し合う時間を実態に応じて長めに設定したり、やってみることを大切にしたりするように声掛けをする。 発・教運動特性に応じたポイントを伝え合えるように、児童の姿を取り上げながら運動のコツを考える視点を示す。
道徳	発道徳の学習を日常生活に活用することができるように、児童の実生活に関わる身近な発問を準備する。 学教材の内容や道		発道徳の学習を日常生活に生かすことができるように、児童の実生活に関わる身近な発問を準備する。 学自分ならという視点で考える活動を行う		発自分だったらどうするかという視点や、今後の自分の生活でどのようなことを意識して生活していきたいかということを考えさせる。		発自分ならという視点で問題を考えさせる。補助発問や問い返しを行うことで、考えをより深めさせる。 学個別で考えをまとめる時間をとること		発普段の生活と結び付けられるように、導入とまとめの段階で自分の経験を伝え合う場を設ける。 学ワークシートに自分の考えを書く時間を		発登場人物の心情をよく考え、「自分も～」「自分なら～」という自我関与への展開をつくることで、自分自身のこととし考えられる場を設ける。

	徳的価値について自分で考える時間、友達との対話をする時間を設けた上で、再度自分だったらという視点で考える活動(自己内対話)を設定し、より自分との関わりで価値を捉えていけるようにする。		ことで自分を振り返る(自己内対話)時間を確保し、自身との関わりの中でそれぞれの価値を捉えていけるようにする。		学自分の生活を振り返る時間を作ることで自己内対話を行う機会を設ける。自分の考えを生かせるようにするためにグループで交流する場面を設定し、考えを広げることができるようにする。		で、自己内対話を行う場を作る。全体発表だけでなく、小規模での話し合いの時間を設定し、段階的に話し合えるようにする。		多く設けることで、活動を通して自己内対話をできるようにする。		学個別で考え自己内対話を促す時間、グループや全体の場で意見を交流させる時間をそれぞれ十分に確保することで、自らの考えをより深めていけるようにする。	
外国語									学センテンスや語彙を獲得できるよう、チャンツだけではなく、ALTと一緒に発話する時間を取ったり、ゲームを設定し、その中で楽しみながら伝えられるようにしたりする。		発発表する際に、順番や方法を工夫して、児童の抵抗感を減らせるようにする。書く時には、4線を毎時間意識させるように声掛け、指導する。	